

# Excelで集計した特殊荷重を『SS7』へ登録

## 本プログラムの説明

Excelで集計した特殊荷重を [8.1.特殊荷重] へ登録します。

特殊荷重の計算用のフォーマットは、会社・設計者ごとに異っており、標準的なフォーマットは存在しないため、サンプルのエクセルシートを用意しております。

使用しているフォーマットに合うようにプログラムを変更してご利用ください。

## 本プログラムの実行方法

### 1. パラメータ設定

「main.py」を編集して、必要なパラメータを設定します。

変数	説明
CSV_path	CSVファイルを出力する場所のパス
ss7_path	特殊荷重を加えたい『SS7』ファイルのパス
ss7_addload_path	特殊荷重を加えた『SS7』ファイルを生成する場所のパス
version	『SS7』のバージョン番号 ("1.1.1.19"など)
result_no	対象とする結果名 ("結果1"など)

### 2. 特殊荷重をExcelで計算します。

特殊荷重をExcelで計算し、『SS7』へのデータ登録や荷重名に重複があった場合の扱いを設定します。

### 3. コマンドラインからプログラムを実行します。

例) C:に「example」というフォルダ名で配置する場合

```
cd C:\example\src
python main.py
```

### 4. 結果の確認

`ss7_addload_path` で指定した場所にExcelで集計した特殊荷重が追加された『SS7』の物件データが作成されます。

## 注意事項

---

- 本プログラムは『SS7』Ver1.1.1.19で動作確認を行いました。
- `ss7_path` と `ss7_addload_path` は必ず別名を設定してください。  
同一の場合は、特殊荷重を登録した『SS7』ファイルを生成しません。
- `ss7_addload_path` で設定したパスのフォルダ内に同一名のデータが存在しないことを確認してください。  
同一名のデータがある場合は、特殊荷重を登録した『SS7』ファイルを生成しません。

## 『Op.Python実行』の設定手順

---

Ss7Pythonライブラリを使用するための設定手順です。

1. 『SS7』を起動し、[ツールー環境設定ーOp.Python実行]画面を表示します。
2. “利用可能なPython言語のバージョン”を選択し、[デスクトップへコピー]ボタンをクリックします。
3. デスクトップにある「Python」フォルダごと、「src」フォルダにコピーします。

## 必要な外部ライブラリ

---

以下の外部ライブラリをPython実行環境にインストールしてください。

- `openpyxl` : Excelの操作ができるパッケージです。

```
pip install openpyxl
```

外部ライブラリのライセンスは「LICENSES/ライセンスについて.txt」を確認してください。

## 著作者

---

Copyright(C)2024 UNION SYSTEM Inc.

## ライセンス

---

本プログラムは MIT License に基づいています。「LICENSE」を確認してください。